川越市立大東西中学校 学校だより
きらめき
令和８年１０月１日発行
第７号
川越市立大東西中学校
校長　小川　潤也

学校教育目標　『豊かな心をもち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』
○自ら考え、自ら学ぶ生徒　○豊かな心を育む生徒　○心身の健康に努める生徒

一歩一歩を積み重ねる

校長　小川 潤也

２学期が始まって１か月が過ぎました。まだ夏の名残を感じる日もありますが、朝夕には秋の風を感じるようになりました。新人戦の市内予選も終わり、学校にも少しずつ日常の落ち着いた時間が戻ってきています。

そして明日から、中間テストが始まります。テストが近づくと、「もっと早く勉強しておけばよかった」と思う人もいるかもしれません。反対に、「今回はここを頑張ろう」と、自分なりの目標を決めて取り組んできた人もいるでしょう。

テストに向けた努力というと、長い時間机に向かうことを思い浮かべるかもしれません。確かに量は大切です。しかし、大切なのは、必ずしも一度に大きなことをすることではありません。

授業で分からなかったことを、その日のうちに確認する。昨日間違えた問題を、もう一度解いてみる。覚えられなかったことを、今日もう一度覚え直す。

こうした一つ一つの小さな積み重ねが、やがて大きな力になっていきます。階段を上るとき、一段飛ばしで進まなくても、一段ずつ上っていけば、いつの間にか高いところまでたどり着いています。勉強も、部活動も、人との関わりも同じです。すぐに大きな変化が見えなくても、昨日より少し前へ進むことに意味があります。

もちろん、努力をしても、思ったような結果が出ないこともあります。頑張ったのに間違えてしまったり、練習したのにうまくできなかったりすることもあるでしょう。そんなときこそ、「できなかった」で終わらせず、「次はどうするか」を考えてみてください。

昨日より一問多く解けた、昨日より少し早くできた、昨日はできなかったことが、今日はできた。その小さな変化に気付くことが、自分の成長を実感することにつながります。そして、努力はすぐに結果として表れるとは限りません。土の中で根を伸ばす植物のように、目には見えないところで力を蓄えている時間があります。今取り組んでいることが、すぐには結果につながらなくても、その積み重ねは決して無駄にはなりません。

中間テストも、その一歩です。今回のテストを「何点取るか」だけで終わらせるのではなく、「自分は何を頑張るのか」を考える機会にしてほしいと思います。

大きな一歩でなくていいです。誰かと比べなくていいです。自分のペースで、一歩ずつ。

今日の小さな努力が、明日の自分をつくります。そして、その一歩一歩の積み重ねが、いつか振り返ったときに、大きな成長として皆さん自身を支えてくれるはずです。この秋、自分なりの目標に向かって、一歩ずつ歩みを進めていきましょう。